

平成27年度 輪之内町立大藪小学校 学校評価

学校の教育目標	よく考え 励まし合って やりぬく子 ○よく考える子 ○励まし合う子 ○やりぬく子	
経営の重点	<p>「子どもに生きる力と自信をつける学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や仲間の心を大切に、明るいあいさつができる子 ・じっくり考え、正しく判断して、粘り強く取り組み ・ふるさとを愛し、誇りに思う子 ・一人一人を大切に、深い子ども理解を基に実践する教師 	<ul style="list-style-type: none"> ◎一人一人を大切に、共に高まり合う集団づくり ◇関わり合う中で、仲間の思いを知り、支え合って共に高まろうとする集団の育成 ◎主題研究を通じた基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれを活用して 思考力、判断力、表現力等を高める授業の創造 ◇主題研究を通じた学びのスタンダードの明確化 ◎健康で安全な生活の仕方を学び、実践する子の育成 ◎自己研修課題に基づく実践を確かめる主体的な研修 ◇人権意識を高め、教師としての専門性を磨く研修

町の重点	評価の観点	評価	今年度の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ ＜特色ある学校＞保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	B	<input type="checkbox"/> 1年生と保育園児との交流授業では、お互いによさを発揮し、楽しむことができた。職員の懇談で、互いの活動や指導、特別な支援を要する子どもについて交流することができた。 <input type="checkbox"/> 「校区ふれあい活動」では、中学生ボランティアが活躍することができた。	<input type="checkbox"/> 保育園との懇談で、子どもの情報交流とともに、小学校での指導や生活、保育園での指導について交流し、互いに指導に生かす。 <input type="checkbox"/> 小中連絡会で、子どもの情報交流とともに、小学校や中学校での指導を交流し、生かす。	・学校の教育目標に向かって、組織的に取り組んでいる。「学校が楽しい」と感じている子どもが多いことに表れている。 ・「ふれあい活動」が、PTAや中学生との交流の場となっている。さらに、祖父母にも声をかけることで、いろいろな年代の方の交流できる場になるとよい。 ・保育園との交流を、さらに意図的、計画的に進め、職員の研修につなげるようにする。 ・さらに、いろいろな面で中学校との連携を図り、指導に生かすようにする。
	2 ＜開かれた学校＞学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	B	<input type="checkbox"/> 「校区ふれあい活動」では、地域の方や中学生など、いろいろな人との交流が図れた。 <input type="checkbox"/> 学校での様子を通信などで伝えることができた。	<input type="checkbox"/> ホームページの紹介を「学校便り」でする。	
	3 ＜危機管理＞児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	A	<input type="checkbox"/> いろいろな場面を想定した「命を守る訓練」を行い、指導や対応を確かめたり改善したりすることができた。	<input type="checkbox"/> 「命を守る訓練」の想定やねらいを明確にして、各学級で事前指導を確実に行う。 <input type="checkbox"/> 安全な生活について、子どもからの働きかけ(委員会活動や係活動など)を促すようにする。	
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	4 ◎ ＜校内研修＞校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	A	<input type="checkbox"/> 全校研究会では、模擬授業を行い、事前に授業の主張点を理解して授業を参観し、研究会に臨むことで全職員で学び合うことができた。また、各部研の授業研にも広がり、指導力を高めることにつながった。	<input type="checkbox"/> 学びのスタンダードの「聞く」「話す」「書く」の見直しを行う。 <input type="checkbox"/> 全体交流での教師の役割として、どこに立ち止まらせるのかを明確にする。	・子どもが授業に集中している。 ・模擬授業や全員が公開授業を行うことで、授業研究が進められている。今後も継続したい。 ・授業の中で、子どもにじっくり考えさせる時間を大切にしている。
	5 ＜個人研修＞経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	B	<input type="checkbox"/> 初任者研修が、計画的に進められた。	<input type="checkbox"/> 週案の中で、学級経営の見直しを随時行うようにする。	
	6 ＜情報研修＞分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	B	<input type="checkbox"/> デジタル教科書を活用したことで、子どもの興味関心を引き出し、理解を深めることができた。 <input type="checkbox"/> 教材づくりの時間をスリム化できた。	<input type="checkbox"/> 情報主任が中心となり、夏休みに低学年・中学年・高学年の順番に、どのようにICTを活用したかを発表し、互いに研修する場をもつ。	
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる	7 ◎ ＜基礎基本の定着＞指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	B	<input type="checkbox"/> 基礎基本の確実な習得を目指して、評価問題を教師が確実に見届けたことで、基礎基本の定着を図ることができた。 <input type="checkbox"/> 指導のねらい・課題・まとめの整合性を大切にして、教材研究をすることで、子どもに力をつけることができた。 <input type="checkbox"/> ペア交流を意図的に位置づけたことで、基本が定着するようになった。 <input type="checkbox"/> 全校共通でドリルを2回目までとしたことで、学習プリントなどを活用して、多様な問題に取り組み、力をつけることができた。 <input type="checkbox"/> 毎週の「漢字・計算テスト」、学期末の「検定」が定着し、それに向けた家庭学習パワーアップ週間を位置づけることで、子どもの意識を高め、保護者の協力を得ることができた。	<input type="checkbox"/> どの学級でも「学習のスタンダード」の「聞く・話す・書く」のめざす姿を大切にして、子どもの姿を変えていく。 <input type="checkbox"/> 終末に基礎・基本の定着を図る時間を確保し、確実に見届けるようにする。 <input type="checkbox"/> 水曜日の「漢字・計算の時間」に、百マス計算(たし算、かけ算)など、子どもの実態にあった課題に取り組みさせるようにする。 <input type="checkbox"/> 百マス計算は、この時間に限らず、いろいろな時間に活用できるように、少人数担当が準備しておく。	・「学習のスタンダード」でめざす姿が明確になっている。「聞く・話す・書く」は、授業が成立するために、大切なことなので、指導を継続・徹底する。 ・授業内容の習得について、授業の終末に教師と子どもの双方で、確実に見届けるようにする。 ・漢字や計算の検定は、意欲を高め、定着を図ることにつながっている。 ・個に応じた支援や指導が工夫されている。
	8 ＜個に応じた指導＞指導内容の系統性、発展性や児童生徒の発達の段階を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	B	<input type="checkbox"/> 3コースに分かれた習熟度別少人数指導、2コースの等質少人数指導など、各コースの個別指導や見届けによって、実態に応じた指導をすることができた。	<input type="checkbox"/> 学び直しが必要な内容は実態に応じて時間を確保し、確かな学力の定着を図る。	
	9 ＜学習集団づくり＞児童生徒の発達の段階に応じた各教科の学び方を身に付け、学び合う学習集団へと質を高めるとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	B	<input type="checkbox"/> 「聞くこと」を大切に指導し、その成果が子どもの姿として現れてきた。	<input type="checkbox"/> 学びのスタンダードにある「話し手」が「聞き手」を意識して話すことを徹底する。	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	10 ＜全教育活動を通じた道徳教育＞道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	<input type="checkbox"/> 道徳の年間計画に沿って行われている。また、月の重点が出されることによって確実に指導することができた。	<input type="checkbox"/> 「わたしたちの道徳」の効果的な活用を図り、交流する。	・道徳の授業の基本的な授業過程が定着している。 ・道徳教育は、道徳の授業だけでなく、いろいろな場で、意図的に行うことで、道徳性を高めるようにする。 ・命の大切さや相手を思いやる心を育むことを、さらに大切にしている。
	11 ◎ ＜道徳の時間＞道徳の時間のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力が育成されるよう、指導過程や指導方法を工夫する。	B	<input type="checkbox"/> 道徳の時間に気付けた道徳的価値を道徳コーナーに位置付けた。また、自分の生活を振り返る時間を位置付けることもできた。	<input type="checkbox"/> 実践につなぐ係活動や清掃活動の充実を図ると共に、道徳との関連を深める。	

町の重点	評価の観点	評価	今年度の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価
	12		○児童会活動や「ひびきあい週間」の取組で、「心の教育」につながる活動が多彩に行われた。	□あいさつボランティア(ハピスマ隊)や、「あったかフラワーガーデン」の取組を継続し、あいさつができるようにする。	・児童会の働きかけで、「あいさつ」に取り組んでいることがよい。
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	13	◎	○教科書を利用して、計画的に進められた。 ○ALTと協力しながら進めることができた。	□あいさつの仕方や授業の流れを統一して、カードなどで示す。 □ALTとの打合せを確実にし、担任の出番をより多くしながら授業を進める。 □「ふりかえり」では、「スマイル」「大きな声」「コミュニケーション」の観点で評価する。	・ALTと協力して、ゲームを通して、コミュニケーション能力の素地を養っている。子どもが楽しく英語活動に取り組んでいることが、子どもの力となる。
	14		○ゲームの時間が多く確保され、いろいろなパターン(個人・グループなど)のゲームの活動を通して、英語に親しむことができた。	□授業の流れを一定(パターン化)する。ALTと確認をとる。トピックや歌なども時々入れるようにする。	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよい問題を解決する資質や能力を育てる。	15		○指導計画があるので、見直しをもって活動を仕組むことができた。	□見直したことを記録して残し、次年度に生かす。	・ふるさと学習が、計画的に進められ、「ふるさと学習発表会」で、下学年の子どもが参観することで、子どもの意欲を高め、活動の継続することにつながっている。
	16	◎	○探究的な学習に身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定し、探究活動を充実する。	□新たな講師をみつけるなど、いろいろな方に講師を依頼することで、地域の方との交流を図ったり、体験的な活動を広げたりする。	・地域講師の活用を継続すると共に、新しい講師をみつけられるとよい。 ・地域に目を向け、足を運ぶ機会を大切にすることで、地域とのつながりも深めることができる。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	17		○委員会、クラブ、係活動などの特別活動で、自分たちで学校や学級をよりよくしようと考える行動し、自信をもつことができた。 ○「わかたけ活動」は、異学年のよりよい人間関係作り役に役立っている。	□取り組みの成果を明らかにし、積み上げていき、次の活動へつなげていけるとよい。	・「わかたけ活動」は、児童が楽しみにしている。よい人間関係の中で、活動できているといえる。 ・教師と子どもに一体感があり、あたたかい人間関係の中で生活している。
	18	◎	○学級や学年の問題点を話し合うことにより、よりよい仲間づくりに向かうことができた。	□係活動や学級会、学年集会の話し合いを意図的に仕組み、子どもの力で学級をよくしていこうとする態度や力を身につける。	
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる	19	◎	○心のアンケートを活用し、子どもに話を聞くことで、問題の早期発見・解決を図ることができた。また、保護者との連絡を密にすることで、問題に対して真摯に取り組むことができた。 ○生徒指導事例研を通して、全校職員が現在悩んでいる子どもやその支援のあり方について、共通理解協力して、指導を継続することができた。	□無記名アンケートを学期に1回ずつ実施し、実態把握の方法とする。 □SNSによるトラブルは増加傾向にあるため、「学年部集会」や「学年部朝の会」で情報モラルの学習を位置づける。 □PTAが主体となり、保護者の学習機会をもつ。 □中学校との連携を図り、中学校で指導されていることを取り入れ、生かすようにする。	・一人の児童に、担任だけでなく、いろいろな先生が関わっていることで一人一人が大切にされていることがよくわかる。 ・無記名アンケートは、ふだん児童が言えないことが表れることもあるので、児童の理解や指導に生かすことができる取り組みである。 ・保護者との連携が、個別によく図られている。
	20		○いじめに関わることで、情報を共有し、学年体制、全校体制で指導することができた。 ○学級指導を行ったり、該当の子どもに声をかけるなど、見届けをすることができた。	□学年や学年部、ケース会などで、保護者への対応について、共通理解をし、相談をして対応する。	・中学校の先生の話や話を聞くことは、児童にとってよい機会となる。今後も連携して、継続する。
	21		○ひびきあい集会や人権教室など、相手を大切にすることを指導した。 ○児童会を中心に、「さん付けキャンペーン」などが行われ、より実践に結びつけた。 ○間違えた言動、危険な行為について、そのつど、丁寧に指導してきた。	□児童会の活動と連携して、継続する。 □子どもの変容を見届け、広めるようにする。	
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	22	◎	○係活動(学級・委員会)、清掃活動(掃除・わかたけ掃除・大掃除)、ボランティア活動(ハピスマ隊・資源回収)などの活動が計画的に位置付けている。 ○道徳や社会科の学習の中でも、勤労・奉仕について触れることができた。 ○美化委員が中心となり、掃除に関する取組をすることができた。	□高学年として、ボランティア精神を発揮する機会や伝統としての掃除を意識させる機会を充実させる。 □学級の掃除で「黙働掃除」ができるよう指導を徹底していく。 □「みんなのどうとく」をさらに活用する。	・6年生が地域の高齢者施設を訪問して、活動することが、勤労観や職業観を育てることにつながっている。 ・道徳の授業が、自分の生き方を考える場となっている。今後も充実を図れるとよい。
	23		○ガイダンス一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。(中)		
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	24	◎	○食育が行われ、食べることの大切さを指導した。なぜ、食べるのか、どんな食事がよいのかなどを学ぶ機会となった。 ○外部の講師を招いて、食育・思春期教育・たばこの害・連れ去り防止など、いろいろな面から学ぶことができた。 ○アレンジャーを活用したり、個別に確認したりして、アレルギーをもつ子どもへの対応を確実にすることができた。	□学級で保健係等の係や委員会活動など子どもの活動としても位置づける。 □給食の約束を年度始めに明確にする。	・「食育」は大切なことである。栄養教諭と連携して、指導されていることで、より効果がある。 ・外部の講師による指導は、児童は興味をもって、学ぶことができる。 ・児童のアレルギーに対して、保護者と連携されている。複数のチェックで、間違いに対応・指導されている。
	25		○自分の目標に向かって一生懸命取り組む姿が多かった。 ○朝マラソン、持久走、なわとびを通して、継続的に体力づくりに取り組んだ。 ○朝マラソンや中休みの体育委員会の遊びなど、子どもが楽しく体力づくりができる場が用意されている。	□学級遊びを定期的に開催する。 □中休みは、全員が外に出て活動ができるよう、学級での指導や、体育委員会の取組などを継続して行う。 □運動量確保のために、来年度からマット・跳び箱の授業を行う時期を全校で統一する。	
	26		○アレルギーチェックを毎日、全職員が行っている。それによって、子どもの安全を確保することができている。 ○危険な行為については、その理由とともに指導した。	□子どもに、自分のアレルギーについて理解する力を身に付けさせる。 □危険を予知できる力をつけるために、発達段階に合わせて具体的に指導していく。	

町の重点	評価の観点	評価	今年度の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	27 ◎ <校内支援体制>特別支援教育コーディネーターを中心として、保育園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、全教職員が組織的に指導する。	B	○定期的にケース会議や交流会がもたれ、今後の対応や対策を検討し、指導に生かすことができた。	□来年度に特別支援学級に入級する子ども、継続する子どもの学力などの実態をつかみ、個に応じた指導計画を作成する。	・特別支援学級では、一人一人に寄り添って、ていねいに指導されている。 ・特別支援学級と通常学級との交流が、子どもの育ちやよりよい人間関係を育むことになる。 ・発達しよう害の理解や指導については、今後さらに研修を重ねる必要がある。
	28 ◎ <個別の支援>保護者や関係機関との連携の下、一人一人の教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を発揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	A B	○個別の支援計画が作成され、それに基づいて支援できた。 ○随時情報提供があり、特別支援教育についての理解を深めることができた。	□通級指導学級についての研修を行う。	
	29 ◎ <交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的にやり、社会性や豊かな人間性を育てることができるよう指導を充実する。	B	○通常学級との交流が、とてもよかった。	□発達障がいについて、さらに研修を行う。	
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	30 ◎ <人間関係の醸成>互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	B	○ひびきあい集会に向けて児童会を中心に「あいさつ運動」を行ったことで、あいさつの輪が広がり、活気ができた。 ○よさみつけなどを学級で継続的に行った。 ○人権標語キャンペーンでは、思いやりある標語が集まり、全校の場で表彰して価値付けすることができた。 ○ひびきあい集会では、命の大切さや言葉の大切さを子どもに伝え広めることができた。	□子どもがよさを発揮できるような授業や活動を工夫する。 □あいさつや「さんづけ」は、引き続き、学期ごとに段階的に、取り組む。	・「ひびきあいの日」の取組や、児童会の取組が、児童の心に響き、行動につながっている。 ・「いじめ」について、早期発見・早期指導が、組織的に協力してていねいに行われている。今後も、継続する。
	31 ◎ <いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	A	○定期的な「いじめアンケート」「教育相談」や、機会を捉えた意図的な学級・学年・全校指導が実施できている。 ○アンケート把握したことや問題が生じたときは、組織的に対応・指導することができた。 ○問題に対して、速やかに学級での話し合いや学年集会の場で、指導することができた。	□差別・蔑視を見逃さない指導を常に心がける。 □取組の成果を評価して、次の指導につなげる。 □いつもアンテナをはって子どもや学級を観察し、子どもの声や行動に気を配っていく。	
【情報教育・図書館教育】 ・児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	32 ◎ <情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	B	○デジタル教科書の活用が行われた。 ○理科、社会などの映像を使うことで、子どもの理解につながった。 ○情報委員会のパソコン祭りでは、学年にあった情報技術を学ぶことができた。		・デジタル教科書が活用されている。さらに、効果的な情報活用や授業への取り入れ方を研修し、交流する機会をもつとよい。 ・情報モラルの問題は、避けては通れない。小学校の早い時期からの指導が大切であると共に、保護者の意識を高めることが必要である。PTAや中学校と連携を図った指導ができるとよい。 ・図書館司書の配置やバーコード化によって、本の配置や掲示など、環境がよくなったことが、子どもの読書の意欲につながっている。
	33 ◎ <情報モラル>情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、意図的・効果的な指導を行う。	B	○情報モラル週間の授業を確実にやり、発達段階に応じて適切に指導した。 ○身近な問題を取り上げて指導することができた。	□授業参観や懇談会を活用して、保護者にも啓発していく。	
	34 ◎ <図書館教育>学校図書館を利用しやすく整備し、図書の計画的な活用や読書活動の推進に取り組む。	B	○貸し出しや管理が電算化されたり、司書教諭の働きかけがあったりして、図書室の環境が改善され、使いやすくなった。 ○文化賞に読書が位置づけられていることで、読書の意欲につながっている。 ○図書祭りや司書教諭、PTAの読み聞かせがあり、読書に親しむことができた。	□推薦図書10冊を選定し、確実に読みきることができるようにする。	
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる	35 ◎ <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	B	○地域の人材や施設を活用することで、子どもが積極的に、興味をもって学ぶことができた。	□人材ファイルに講師の情報を必ず書いて引き継ぐ。 □スマートフォンの使い方について、中学校の生徒が、小学校に来て呼びかける機会を検討する。	・総合的な学習の時間で、学年に応じた課題で、ふるさと学習に取り組んでいることが、子どものふるさとの理解や愛する心につながっている。
	36 ◎ <国際交流>国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	B			
【家庭学習の充実】	37 ◎ <家庭学習習慣>家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	B B	○町共通の家庭学習の手引きや家庭学習のポスター、学校独自のパワーアップ週間などの取組を継続してきたことで、家庭の理解や協力が得られ、子どもが意識して学習に取り組むことができた。 ○家庭学習に取り組みにくい子どもにも、担任が根気よく声をかけ続けたことで、個の取組状況に変容がみられた。	□検定1週間前には、パワーアップ週間を設定する。家庭への協力を得られるように、学年通信で啓発したり、学級懇談会で取組状況や伝えたりする。	・「パワー週間」や「手引き」など学校全体で家庭学習について取り組んでいることがわかる。さらに、個への働きかけを工夫してほしい。